

ウルグアイ経済報告（10月分）

【概況】

- 10月の消費者物価指数（対前年同月比）は8.34%となり、先月に続き政府のインフレ目標（3～7%）を上回った。前年同月比で食料品・ノンアルコール飲料及び福祉の分野では2桁、それ以外の分野では1桁台の増加であった。
- 10月の対ドル為替レートは平均37.30ペソと、前月比2%のペソ安となった。
- 10月の輸出額は738百万米ドルで、乳製品、セルロース、生体牛、羊毛、皮の輸出減少に伴い前年同月比は10%減となった。なお、セルロースの輸出減少は、UPM社の工場整備に伴う生産停止によるものである。一方、大豆、牛肉、炭酸飲料原料、麦芽飲料の輸出は好調であった。
- 10月の輸出額第1位は牛肉で、輸出額は、153百万米ドル（前年同月比12%増）となった。輸出全体の68%が中国への輸出であり、対中輸出額の前年同月比は37%増（28百万米ドル増）となった。また、米国（26%増）及びブラジル（31%増）への輸出も増加した。同2位はセルロースで、輸出額は106百万米ドル（前年同月比24%減）となった。輸出量減少は、UPM社の工場が整備のため13日間操業を停止したことによるもの。同3位は、メキシコへの輸出が増加した炭酸飲料で、輸出額は55百万米ドル（前年同月比21%増）となった。同4位は大豆で、中国への輸出の大幅な増加に伴い、輸出額は55百万米ドル（前年同月比49%増）となった。
- 輸出が特に不調であったのが生体牛、乳製品、羊毛、皮である。昨年同月には32百万米ドルであった生体牛の輸出額は、百万米ドル以下（36,500米ドル）まで落ち込んだ。乳製品の輸出額は、アルジェリア、ブラジル、ロシア、メキシコ等の主要輸出先への輸出減少に伴い、51百万米ドルと、前年同月比42%減となった。羊毛・織物の輸出額は、主要産品であったカードもしくはコームされていない羊毛、純毛の輸出減少及び主要輸出先であった中国、ドイツへの輸出量減少に伴い、8百万米ドル（前年同月比61%減）となった。皮及び皮製品の輸出額も、各主要輸出先への輸出減少に伴い10百万米ドル（前年同月比35%減）となった。
- 輸出が特に好調であったのが麦芽飲料で、ブラジルへの輸出増加（5百万米ドルから14百万米ドルに増加）に伴い、輸出額は24百万米ドル（前年同月比62%増加）となった。
- 10月の主要輸出先を見ると、先月に続き中国が輸出先第1位となった（158百万米ドル、輸出額全体の24%）。冷凍牛肉（前年同月比37%増、76百万米ドルから104百万米ドルに増加）の大幅な輸出増加により、前年同月比は10%増となった。一方、主要輸出品の1つであった大豆の輸出は減少した。同2位はブラジル（106百万米ドル、輸出額全体の16%）で、前年同月比は、主要輸出品である麦芽飲料（5百万米ドルから14百万米ドルに増加）及び自動車（8百万米ドルから13百万米ドル）の輸出増加に伴い8%増となった。同3位はEUで、主要輸出品である牛肉、薪の輸出減少に伴い、輸出額は45百万米ドル（前年同月比31%減）となった。同4位は米国で、主要輸出品である冷凍牛肉の輸出増加（25%増）に伴い、輸出額全体の6%、前年同月比2%増となった。同5位はアルゼンチンで、輸出額は30百万米ドル（前年同月比19%減）となった。

【トピック】

1 ブロンコビリー社関係者のウルグアイ訪問

10月3日、日本のステーキ・レストラン・チェーンを運営するブロンコビリー社関係者がウルグアイを訪問し、ベネッチ農牧水産大臣、スタンハム・ウルグアイ食肉協会（INAC）

会長と会合した。同会合では、同社で本年5月から8月に実施したウルグアイ産牛肉のプロモーションが予想以上に良い結果を出したことについても言及された。

2 カネロネス県への Google 社情報センター設置

10月24日付当地主要紙報道によると、Google社が、カネロネス県のフリーゾーン内にオフィス及び情報センターを設置することが正式に決定した。本件交渉は、2015年の第二次バスケス政権発足時から始まり、2017年のコッセ工業・エネルギー・鉱業大臣（当時）のGoogle本社訪問を含む米国訪問以降本格化した。

3 世界銀行報告書

世界銀行が発表したラテンアメリカ・カリブ諸国経済への米中貿易摩擦の影響に関する報告書によると、中国の経済状況がウルグアイ経済に与える影響は非常に大きい。一方で、ウルグアイがG7諸国の経済状況の影響を受ける可能性はあまり大きくない。

4 2019年経済成長予測

FocusEconomics社は、世論調査会社及び銀行の発表した10月時点でのデータを基に、半年前には1.5%であったウルグアイの2019年経済成長予測を、0.5%に修正した。同社報告書は経済成長予測の低下の原因として、大統領選挙、貿易摩擦悪化、地域の経済成長弱体化に対する不安を挙げている。なお、2020年経済成長予測については1.5%とした。

5 GDPにおける税歳入の割合に関する CIAT 報告書

10月24日、米州税務長官会議（CIAT）が、ラテンアメリカ諸国のGDPにおける税歳入の割合を発表したところ、ウルグアイは35.4%と、キューバ（42%）に次いで高い数値を記録した。同報告書によると、ウルグアイはここ数年間、特に個人に対する所得税の税率を上げている。

6 情報技術分野での輸出

ウルグアイ情報技術会議所（CUTI）の最新の調査結果によると、2018年の情報技術分野での輸出額は、771百万米ドル（対前年比13%増）と、主要輸出品であるセルロース、牛肉に次いで輸出額全体の第3位となった。

7 財政赤字

本年9月までの12ヵ月間の財政赤字の対GDP比は4.9%と、8月に比べ0.1%増加した。

8 製造業生産活動指数

10月14日の国家統計院（INE）の発表によると、8月の燃料公社（Ancap）を抜いた製造業生産活動指数（IVF）の前年同月比は5.3%増となった。なお、経済研究センター（Cinve）の発表によると、Ancapに加え、UPM社、モンテス・デル・プラタ社及びペプシ社を抜いた場合のコア製造業生産活動指数は、前年比1.8%増となった。また、コメ及び食肉企業の生産拡大に伴い、輸出産業においては2.2%の成長が見られた。

（了）